

狙われた高級外車 残されたキズが語った事故の姿

難解な交通事故の真相に、独自の緻密な手法で迫る交通事故鑑定人、駒沢幹也氏(モ)の事件簿から。今シリーズ最終話は、高級外車の事故。「世の中には、どういうわけか高級外車にぶつかりたがる人たちがいる」のである。その理由は……。

深夜、東京の郊外にある小さなスナックの駐車場に、重々しい排気音を響かせながら一台の外車が止まつた。

八一年の秋。関東地方はその夜、大型台風の影響で激しい風と雨に見舞われ、町のあちこちで浸水騒ぎが起こっていた。そのせいか、この店の駐車場はがらんとして、ほとんど客の姿はなかつた。

車から降りた男は、雨に濡れた上着を脱ぎながら、店に入つて來た。

「いらっしゃいませ」「なにかですか?」

「はい、焼もそばによろしいですか?」

店主がそう言うと、男性はうなずいて、窓際の席に座つた。だれかと待ち合わせをしているのだろうか、彼は何度も腕時計に目をやつしていた。

それから約十分後、駐車場のほうで突然「バン!」という衝突音がした。

「やつたな……」

男はそう言って立ち上ると、すぐに表へ飛び出した。店の中にいた男女の客もあわてて席を立ち、ドアから外へ目をやつた。

見ると、駐車場に止めてある外車の右側がへこんでいる。道路から大きくそれで走行してきた乗用車に、突っ込まれてしまつたようだ。

「なにやつてるんだ、酒飲んでるのか、それとも居眠りか!」

男は事故を起こした若い運転手を運転席から降ろし、大声で怒鳴つた。

「すみません……。居眠りしていて気がつきませんでした」

「とにかく警察に連絡だ。ちょっと電話を貸してくれ」

店の中に入ると、男は受話器を取り

興奮した口調で事故の報告をした。

「警察ですか? 実は今、店の駐車場に止めていた私の車が、居眠り運転の車にぶつけられまして。はい……いや、けが人はいないんですがね。わかりました。それじゃあ、明日の朝にでも……」

物損事故といふことであとまわしされたのか、その夜、現場に警察は来なかつた。

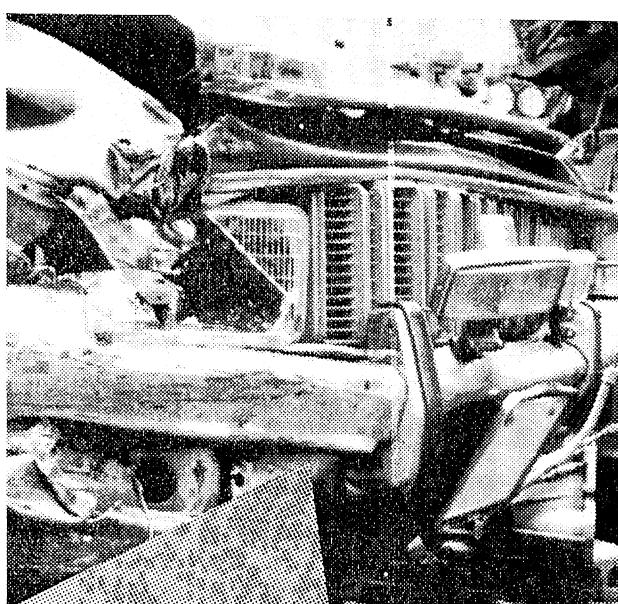
夜が明けてからスナックの店主が駐車場を見たときには、すでに事故車は二台ともどこかへ移動させていた。

*

駒沢氏は、事故車の写真を広げて語り始めた。

「これが駐車場でぶつけられた外車の写真だ。アメリカ製のクライスラー・ニューヨーカー、当時でも新車で買え

短期連載



柳原二佳
（じやなづか やなぎはらみか）

続々
交通事故
4
ゲー



「いや……世の中にはね、あえて高級外車にぶつかりたがる人たちもいるんだよ」

「私がぶつかった」と
とは間違いないが……

クライスラーの修理代金は、クラウンの運転手がかけていた自動車保険の対物賠償から支払われることになつていた。もちろん、修理期間中の代車使用料も含めてである。

ところが、ちょっとしたトラブルが発生した。クライスラーの所有者である男が、「修理中の代車も、高級外車でなければ納得できない」

と言い張り、一日四万五千円といふ、一般的の水準をはるかに上回る代車を要求してきたのだ。

一方、クラウンは、右前のバンパーがグンヤツと押しつぶされ、激しくこすったようなキズが残されていた。右後部のバンパーもめぐれ上が

たようには、黒い塗装にはこすったような深いキズがいくつも見られた。完璧な修理をするなら同じ車を買ったほうがはるかに安い、結果的には全損である（次ページ写真1）。

一方、クラウンは、右前のバンパーがグンヤツと押しつぶされ、激しくこすったようなキズが残されていた。右後部のバンパーもめぐれ上がり、前後ドアが大きくえぐられたり、グレーの車体には、クライスラーのものと思われる黒い塗料がこすりキズとともににはつきり残っていた（写真右）。

クライスラーは、右側のフロントフェンダーや前後ドアが大きくえぐられたように破損しており、黒い塗装にはこすったような深いキズがいくつも見られた。完璧な修理をするなら同じ車を買ったほうがはるかに安い、結果的には全損である（次ページ写真1）。

一方、クラウンは、右前のバンパー

が、車によつからつてしまつたんだよ」

「それにも、よりによって高級外車によつからつてしまつたなんて、クラウ

ンの運転手も運が悪かったです」

一方的に車を壊された被害者の悔しさは、わからぬでもないが、保険会社の担当者は、ただ頭を下げるしかなか

った。

「恐れ入りますが、しばらくの間、当方から差し向ける国産のレンタカーで我慢していただきたいのですが……」

すると、男は突然声を荒らげ、激しく怒りだした。責任者が代わって応対

に当たることになったのだが、それでも男の怒りはなかなかおさまるよう

がなかつた。

必要以上に威圧的な男の態度は、なにか不自然なものを感じさせた。

不自然な点は、ほかにもあつた。保険会社の担当者がそれぞれの事故車を調査した結果、互いの塗料やキズの高さは一致し、この二台が事故を起こしていることは間違いかつたのだが、衝突のかたちがどうも判然としないのだ。

保険会社が駒沢氏に事故の鑑定を依頼したのはこの時点だった。

＊

「どういう衝突事故だつたかって？」
「そんなもの、クライスラーのキズをひと目見ればすぐわかつたさ」
駒沢氏はそう言いながら、鑑定の報告書を開いた。
「この事故のように、止まっている車の横つ腹に、こすつてすり抜けるようなたちの衝突の場合は、あとに残された傷に必ず見られる約束ごとがあるんだ。それはね、いちばん最初にぶつ

けられた部分のキズは表面が滑らかで、後ろのほうになればなるほど荒れることが多い。」「最初がきれいで、後ろが荒れる……。同じものにぶつけられて、そのままこうされているのにですか？」



事故を起こした高級外車のキズを細かく見ると、キズは通常の事故の場合のキズ（写真3）とは異なり、何回もの衝突によってつくられたものであることを物語っていた（写真1、2）

③

「そうだ。よく考えてごらん。ぶつかるほうだって、ぶつかってはじめて大きく変形するわけだ。つまり、その直前まではきれいなたちをしているはず。車に残されたキズの種類を見ていけば、最初にどこへ当たって、どの方向へ抜けていったか、すべてわかるつてわけだ。ほかにも証拠はたくさんあるけどね」

「なるほど……」

駒沢氏は、クライスラーに残された各部のキズの拡大写真を数枚並べた。「このキズを見比べてごらん（写真1、2）。ドアの前のほうはへこんで

ん離れたかたちになっている。しかも、それはドアのほうには見られないギザギザのキズだ」「ということは、時間的にみると、フロントフェンダーのキズはドアのキズより後につけられたものだと？」

アとはいった
のキズは、ド
アの上のほう
のキズは、ド
アとはいった
ん離れたかたちになつていて、
も、それはドアのほうには見られない
ギザギザのキズだ」

車のキズを見るかぎり、クラウンは少なくとも四回にわたって衝突を繰り返している。居眠りによる一回だけの偶然な衝突では、このキズは絶対つくることができないんだ」

駒沢氏は断言した。

こまつた浪人 学習

寄宿生（文・理・医 計10名）募集

*予備校が性に合わず、宅浪も不安という受験生諸君に、当舎への転地学習をお勧めする。東京に近くて遠い上州は赤城山麓。空気もよく水もよい。
*ご心配の親御さんは、電話で具体的にご相談下さい。葉書の場合は電話番号をご記入下さい。当方から電話します。



キズが語る衝突の回数は四回にのぼった

「そう。クラウンはクライスラーのドアにぶつかっていったん後ろまでこすった後、再び車を前に移動させて何度もぶつけ直した。一回ぶつけるとクラウンの右前部もかなりくずれてしまうから、その後ぶつけた個所は、クライスラーに残ったキズも当然荒れている。このような衝突の順序は、運動の物理をまったく無視したもので、起りうる可能性はゼロだ。」

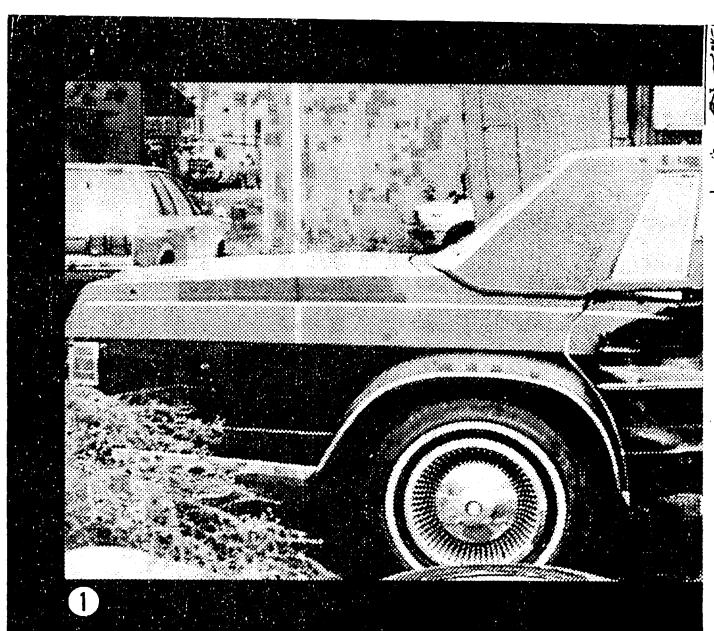
クライスラーのキズから判明した具体的な接触順序は次のようになる。

- 1 フロントドア
- 2 センターピラー
- 3 リヤドア
- 4 フロントフェンダーの側面

物理的な一直線の動きにはつながらないことがわかる。

また、駒沢氏の鑑定書には、もうひとつのが記されていました。

今回の事故のように、ある程度のスピードを出して、止まっているものの表面をなでるよう衝突した場合、動いているほうの車は必ず弧を描いて進



①

クライスラーの男と クラウンの男の関係

保険会社はこの鑑定結果をもとに、契約者であるクラウンの男性に、対物保険金は支払えないことを通告した。

それに対して、クライスラーの男性はまた激しい抗議を繰り返していたが、その後の警察の調べによつてクラウンの運転手との個人的な関係が明るみに出ると、いつの間にか請求を取りやめ、姿をくらませてしまつた。

しかし、クライスラーのドアには、奥深く、明らかにそこで止まつてゐる袋状のキズがいくつも見られたのだ。このような性質のキズは、衝突後も意

大学に選ばれるんじゃない。
大学を選ぶんだ。

福武書店

福武書店は、1995年4月1日に
社名を Benesse Corporation
(ベネッセ コーポレーション)
に変更します。

私は、大学選択指名！

キミの学力を合格力に変える
進研ゼミ大学進学講座

・高1講座・高2講座・大学受験講座・

入会のお問い合わせは、**0120-55-5959**

●受付時間は月～土(祝日は除く)の10:00～20:00です。

●電話番号はお間違えなく。

識的にハンドルをきらなければ絶対につかない。このことも、偶然の事故ではないことを裏づける重大な証拠となつたのである。

つかない。このことも、偶然の事故ではないことを裏づける重大な証拠となつたのである。

のである。

クライスラーを所有していた男は、債権のかたに取つたこの車がなかなか売れず、処分に困つていた。そこで、もうひとりの男に声をかけ、廃車寸前の古いクラウンに対物賠償保険を契約して事故を起させたのだった。

この事故は、高級外車・クライスラーの高額な修理代と代車費用、合わせて約五百円を狙つた保険金目当ての偽装事故だったのである。

高級外車は一度損傷すると、部品代や修理代が高額になる。それもあって、この手の事件にはたびたび登場するらしい。

駒沢氏は語る。
「まず、彼らは一回目の衝突をスナックの駐車場でおこなつた。いわゆる、目撃証人をつくるための『見てくれ衝突』というやつだ。スナックの店主

は、男が店から警察に事故報告の電話を入れたと証言していたが、警察に問い合わせてみると、実際に届けがあつたのは翌日だった。おそらくクライスラーとクラウンの二人は、その夜のうちに車を別の場所へ移動し、ゴツンゴツンと何度もぶつけなおしたんだろう。なにせ相手は頑丈な外車だ。運転者がけがをしない程度の衝突じや、なかなか全損になるまでつぶれてくれないからね……」

しかし、そんな苦労のかいもなく、彼らは結果的に二台の車をつぶしだけ。一銭の保険金も受け取ることができなかつたのである。

人は嘘をついても、車に残つたキズはけつして嘘をつかない。衝突事故という物理運動の法則に、例外はないからである。

(おわり)